

システム開発・保守QCD研究会2017

2018年4月26日

一般社団法人 日本情報システム・ユーザー協会
システム開発・保守QCD研究会

目次

1. 研究会の取り組み
2. 研究会参加企業、参加者
3. 2017年度の取り組み
 - 各社の事例発表・共有の成果報告
4. 2017年度の取り組み
 - 合宿テーマ別討議の成果報告
5. 2018年度について

1. 研究会の取り組み

各社の事例発表、及び合宿を通して研究会メンバ、
各社のレベルアップを図ります。

1. 各社事例発表・共有

⇒ システム開発・保守における品質・コスト・工期・生産性の向上
及び改善にむけた取組みについて、各社、事例を発表
(自社内への展開含め改善のための事例共有)

2. 合宿テーマ別討議

⇒ テーマ別に討議し、課題解決のアイデア、知見の共有に取り組む

2. 研究会参加企業、参加者

NO		会社名	ご参加者氏名
1	部会長		
2	副部会長		
3	副部会長		
4	副部会長		
5	副部会長		
6	副部会長		
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			

2. 研究会参加企業、参加者

NO	会社名	ご参加者氏名
25		
26		
27		
28		
29		
30		
31		
32		
33		
34		
35		
36		
37		
38		
39		
40		
41		
42		
43		
44		
45		
46		
47		
48		
49		

2. 研究会参加企業、参加者

NO		会社名	ご参加者氏名
	アドバイザー		
	事務局		
	事務局		
	事務局		

46社(団体)50名(除くJUAS)

3. 2017年度の取り組み

—各社の事例発表・共有の成果報告

各社事例発表

参考になる取り組み事例が紹介され、質疑応答も積極的に行われ、研究会メンバー各社のレベルアップに繋がっています。

- **開催日時**
 - 基本毎月第1火曜日 15時～18時
⇒ 2017年度は、10回の各社事例発表会を開催！！
- **1回の発表数**
 - 4テーマ～6テーマ
⇒ 2017年度は、合計46テーマの発表がありました！！
- **発表・質疑時間**
 - 発表:約35分
 - 質疑応答(意見交換):約5分

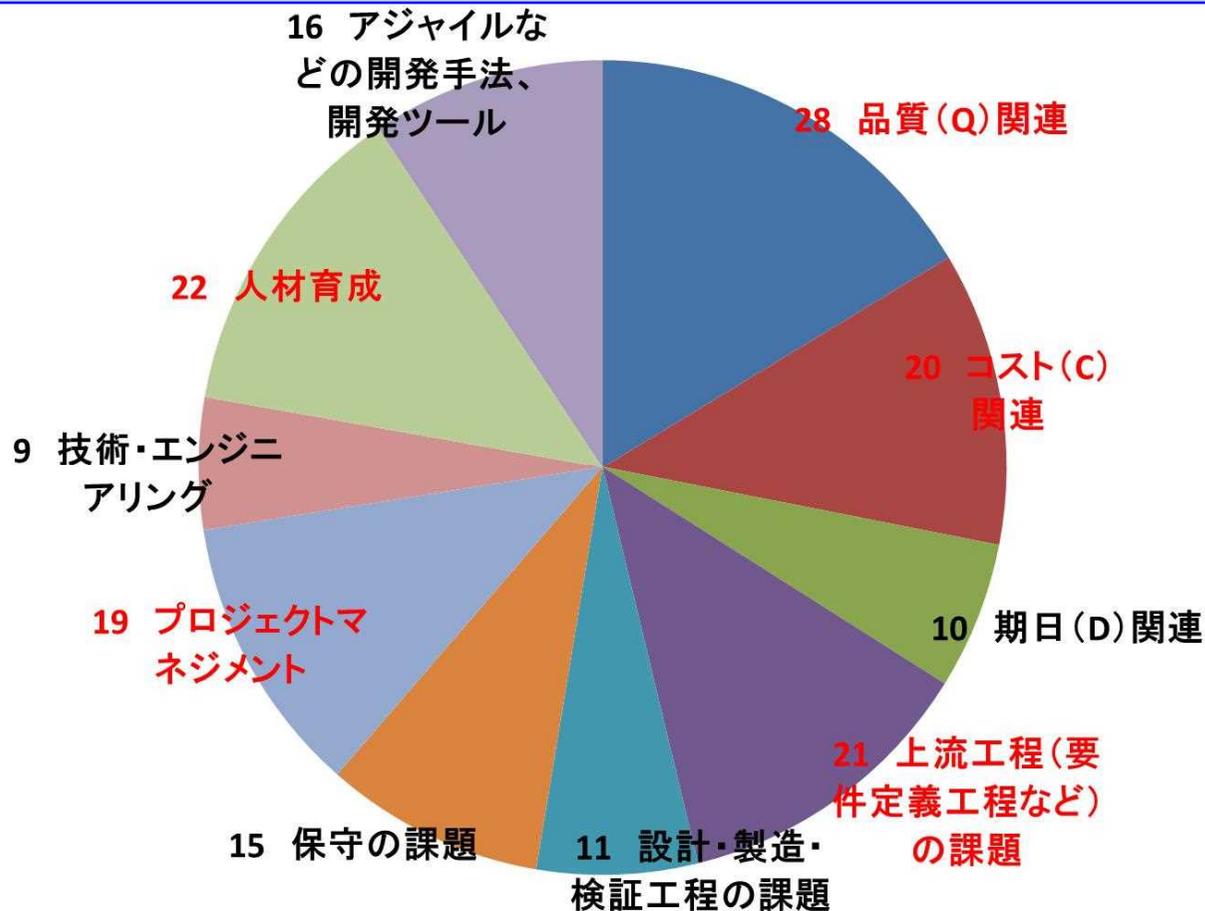
参加者への依頼事項

研究会を有意義な場とするため、研究会メンバーにお願いしていることは、以下のとおりです。

- 各社メンバーから年1回事例を発表
- 発表に対しての質疑・意見交換
 - ・ 発表者への質問から研究会メンバー間の意見交換へ
 - ・ 研究会メンバーに意見・感想を求めることも
- 発表内容は可能な限り具体的内容で
- 事後アンケートの入力
 - ・ 各発表におけるアンケート内容は発表者にフィードバック
 - ・ アンケート結果の良い発表テーマは年度末に表彰！！
 - ・ アンケート皆勤賞の方も年末に表彰！！

事前アンケート

各社事例発表テーマを準備する上で参考にしてもらう目的で、事前に、聞きたいテーマや各社課題認識がある項目は？のアンケートを実施。結果は以下の通り。
1位:品質関連、2位:人材育成、3位:上流工程の課題、4位:コスト関連、5位:プロジェクトマネジメント



事例発表テーマ大方針

各社事例発表のテーマについて、以下を大方針として準備をお願いした。

合宿テーマに関連するテーマ

1. 上流工程における課題の改善
2. プロジェクトQCD悪化の予兆検知
3. AIを活用したシステム開発(どのように適用すべきか)

QCD向上に関連するテーマ

例:プロジェクト事例紹介(成功、失敗)、
全社レベルの品質改善、生産性向上への取組、
メトリクス活用事例、人材育成、上位工程の改善取組
(要件定義工程での品質評価方法etc)

2017年度、発表されたテーマは・・・

発表・議論内容

項目	発表テーマ
品質(Q)関連 (事前アンケート1位) (実績テーマ数1位)	<ul style="list-style-type: none">① システム障害未然防止に向けた取り組みについて② 同じ原因の不具合を発生させない為の取り組み③ 手戻りプロジェクトの受容術④ 品質の作り込み活動⑤ レビュー⑥ ITILに沿った品質向上活動⑦ 品質管理委員会活動について⑧ AP担当向け基盤技術サポート業務の改善への取り組み⑨ 国際規格SQuaREシリーズに基づいたソフトウェア品質の総合的評価の枠組み⑩ EDIシステム品質向上の取組み⑪ 開発態勢強化の取り組み

品質(Q)関連が、事前アンケートどおり一番多く事例発表されたテーマでした。

発表・議論内容

項目	発表テーマ
開発手法・開発ツール ・技術・エンジニアリング (事前アンケート6位) (実績テーマ数1位)	<ul style="list-style-type: none">① 文書作成支援ツールによる組織開発力の強化② 社内ツールを利用したドキュメント管理の導入事例③ システム開発基盤の取り組みについて④ 派生開発でのシステム構築⑤ 開発において手段を目的化しない為に⑥ 超高速開発ツールを利用した利用部門によるアプリ開発⑦ 調査結果に見るアジャイル開発成功のポイント⑧ AIを活用した「ソフトウェア開発の変革」事例⑨ RPA活用に向けた取り組みについて⑩ RPAへの取り組みと 導入事例の紹介⑪ 基幹システムへの機械学習適用の取組(合宿基調講演)

開発手法・開発ツール・技術・エンジニアリング関連も多くの事例発表がありました。AI、RPA、機械学習などのテーマが増加傾向に。

発表・議論内容

項目	発表・議論
プロジェクトマネジメント (事前アンケート5位) (実績テーマ数3位)	<ul style="list-style-type: none">① PM技術の展開② マネジメントフレームワークと今後の課題③ プロジェクト準備段階の工夫点④ インシデントマネジメント改善への取り組み⑤ 開発標準に関する取り組み⑥ 全社的な定量管理の取り組み事例⑦ 開発プロセス改善活動～改善事例を中心に～
人材育成 (事前アンケート2位) (実績テーマ数4位)	<ul style="list-style-type: none">① 若手PMの育成によるQCD向上② 現場主導の知見共有・組織担保への取り組み③ 過去のプロジェクトから得た知見の「見える化」と「共有」の取組のご紹介④ 日常改善への取り組みについて⑤ 新任の業務主担当者へのマネジメント教育のご紹介⑥ ユーザー企業におけるプロジェクト管理・品質管理の浸透に関して(研修)」

PM、人材育成関連も事前アンケートどおり、多い傾向に。

発表・議論内容

項目	発表・議論
上流工程の課題・改善 (事前アンケート3位) (実績テーマ数5位)	① 上流工程強化の勧め ② 上流工程強化の取り組み ③ システム開発振り返りと上流工程強化の取り組み ④ 上流工程におけるステークホルダ・マネジメント (合宿基調講演)
コスト(C)関連 (事前アンケート4位) (実績テーマ数6位)	① フロントエンド(Web)の見積り～コスト要素の体系化～ ② 生産性倍増の取組について ③ システム保守 生産性向上の取り組み
保守の課題 (事前アンケート7位) (実績テーマ数7位)	① ITILをベースとしたシステム運用・保守の事例
その他	① 適正なIT投資に向けた取り組み ② サービス型ビジネスの課題とプロセスへの展開

アンケート結果が高かった発表内容

テーマ	概要
現場主導の知見共有・組織担保への取り組み	<ul style="list-style-type: none">・ 継続して取り組まれている知見の収集と展開の事例・ 各テーマ(再構築、要件定義etc)ごとに分科会を組織し、活動(宿泊研修で知見集の作成、現場に展開)
上流工程におけるステークホルダ・マネジメント (合宿基調講演)	<ul style="list-style-type: none">・ 手戻り事例からの上流工程の課題分析・ 各事例の根本分析(なぜおきるか?)と独自のモデルを用いたステークホルダ・マネジメントによる解決策の提示
サービス型ビジネスの課題とプロセスへの展開	<ul style="list-style-type: none">・ 新たなサービスビジネスへの取り組み事例・ 企画、承認、開発、実行などの各フェーズについて、それぞれの課題を分析し、プロセスを定義
全社的な定量管理の取り組み事例	<ul style="list-style-type: none">・ プロジェクト、チーム個別でなく、全社レベルでの定量管理事例・ 全社統一の定量管理項目(指標)を整備しPDCA実践・ 独自のシステムにて、長年のデータ蓄積・精練を実現
レビュー	<ul style="list-style-type: none">・ レビューの手法、期待される主な効果を整理し、自社の各工程における検知活動、検知内容を整備・ 自社に多くみられる課題(設計書すり抜け、不具合先延ばしなど)を抽出し、原因分析と対策立案

4. 2017年度の取り組み

—合宿テーマ別討議の成果報告

合宿テーマ

合宿は、3つのテーマでチームを分け、取り組みました。

上流工程における課題の改善
～ステークホルダ関連～

プロジェクトQCD悪化の予兆検知

AIを活用したシステム開発
(どのように適用すべきか)

全体概要

● 開催日時、場所

- 2017年8月4日(金)、5日(土)
- 浜松

● 基調講演

- ジャステック太田様より、下記テーマにて実施
上流工程におけるステークホルダ・マネジメント
～ SRMモデルを適用したコンフリクト・マネジメント～
- 住友電気情報システム陣内様より、下記テーマにて実施
基幹システムへの機械学習適用の取り組み

● テーマごとにグループを分け、討議、討議結果の発表

- 上流工程における課題の改善 12名⇒2グループ
- プロジェクトQCD悪化の予兆検知 23名⇒4グループ
- AIを活用したシステム開発(どのように適用すべきか)10名⇒2グループ

合宿の流れ

1. 合宿前

事前準備(テーマに関連する各社の事例準備など)

2. 合宿

1日目

- ① 基調講演
- ② チーム別(8チーム)討議
- ③ 懇親会

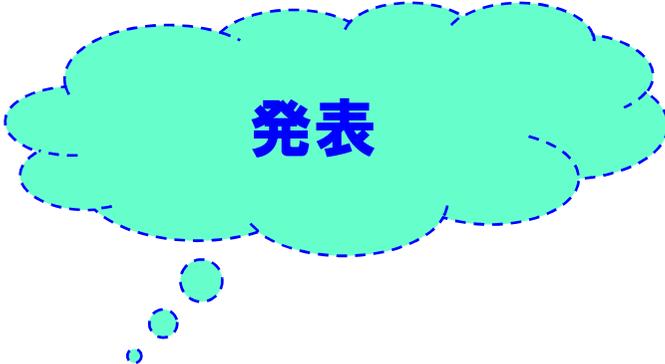
2日目

- ① チーム別発表資料まとめ
- ② チーム別に発表(1チーム15分発表)

3. 9月部会

まとめ発表

合宿風景



発表



チーム討議

合宿風景



集合写真
総勢48名

合宿テーマ1. 上流工程における課題の改善

● 合宿での目的

上流工程におけるステークホルダ関連に起因する課題について、課題分類、原因分析、改善案などを討議する。

● 討議、発表内容（2チーム、12名）

項目	内容
検討内容	<p>【課題認識】 共通的な課題認識として、ステークホルダの洗い出し・特定、役割分担・責任、関与度が明確になっていない。</p> <p>【対策案】</p> <ul style="list-style-type: none">・ ステークホルダー一覧の作成と運用・ 人／組織／プロセス／マネジメントごとの対策一覧を作成

合宿テーマ2. プロジェクトQCD悪化の予兆検知

- **合宿での目的**

システムを発注する側、受注する側、PM、SE、PMO・・・と参加者の様々な立場でのプロジェクト経験をもとに、業種や立場は異なれど、それぞれの経験や知見を持ち寄って、「使える」ものーチェックリスト、気付き事項、行動指針などーを作ってみましょう。

- **討議、発表内容（4チーム、23名）**

合宿テーマ2. プロジェクトQCD悪化の予兆検知

項目	内容
検討内容	<p>【対策案】</p> <ul style="list-style-type: none">・ プロジェクト特性に合わせて、ポイントとなる予兆も異なってくるため、それぞれに合わせた予兆チェックポイントを整理・ 組織／人／進捗の観点で予兆を整理・ 予兆検知のための取組として、社内第三者品質保証的な取り組みの実施・ 各社の知見を集めて予兆のチェックリストを作成・ 予兆検知した場合の伝え方の課題と解決案・ 予実における予兆検知

合宿テーマ3. AIを活用したシステム開発

● 合宿での目的

システム開発保守運用におけるAIの活用を検討。

● 討議、発表内容（2チーム、10名）

項目	内容
検討内容	<p>① プロジェクトやシステムで発生する 下記などのデータに着目し、AI活用を検討</p> <ul style="list-style-type: none">・ 本番システムのシステムログ、PCの操作ログ・ 開発時に作成する設計書・コード・ プロジェクト運営時に作成するプロジェクト管理用データ(進捗データ、障害記録など) <p>⇒入力となるデータの精度が重要</p> <p>② 過去プロジェクトにおける「膨大な量の実績データ」をもとに 主観に依らない「プロジェクト進行における判断材料」の アウトプット検討</p>

5. 2018年度について

2018年度について

**2018年度も事例発表、合宿にて、
開発・保守のQCDを中心に研究していきます。**

1. 各社事例発表・共有

**⇒ システム開発・保守における品質・コスト・工期・生産性の向上
及び改善にむけた取組みについて、各社、事例を発表
(自社内への展開含め改善のための事例共有)**

2. 合宿テーマ別討議

⇒テーマ別に討議し、課題解決のアイデア、知見の共有に取り組む

ご清聴ありがとうございました。